

## 「学校運営アンケート（2学期開始時）」で判明した、猛暑下の厳しい学校現場！ 子どもたちと教職員の健康を守るために、学校長や教育委員会は柔軟な対応を！

市教組は、9月～10月にかけて組合員を対象に「学校運営アンケート（2学期開始時）」を実施しました。今回のアンケート実施の趣旨は、長期休業明けの児童・生徒の様子や、猛暑の中での教育活動が安全に行われているかを把握するためであり、教職員の勤務状況や負担感について現場の声を集めるための調査でした。

市教組はこの調査結果を教育委員会に提示し、2学期開始時の学校生活で配慮すべき点について、市教委に対して適切で柔軟な対応を求めています。調査結果については以下の通りでした。抜粋して掲載します。

### 1. 始業式は何月何日でしたか。



始業式	8/25 (月)	8/26 (火)
小学校	28%	72%
中学校	67%	33%
全体	37%	63%

- ・小学校は72%の学校で8/26(火)始業式実施(給食開始と同日)であった。区でそろえているところもある様子。
- ・中学校は8/25(月)始業式の学校が67%と、小学校の傾向とは反対。

### 2. 始業式の日は何時間授業でしたか。

始業式の日	2時間以下	3時間	4時間	5時間以上
小学校	0%	25%	53%	22%
中学校	64%	1%	35%	0%
全体	14%	20%	49%	17%

- ・小学校は26(火)が始業式の場合は、4時間授業+給食で下校というスタイルが多かった。5時間以上という学校も21%あった。
- ・中学校は、25(月)始業式の場合は、始業式後に提出物を集めて、生活指導をしたら下校という形が多い。初日は休業明けの生徒のようすの確認が中心に行われる。26(火)始業式の場合は4時間授業+給食で下校。

### 3. 短縮授業の実施はありましたか。

短縮授業	あった	なかった
小学校	70%	30%
中学校	30%	70%
全体	61%	39%



- ・小学校では7割が実施、中学校は7割が未実施と対照的な結果。全体では6割の実施となった。

- ・小学校では、区でそろえていると思われる地域もあった。

### 4. 短縮授業を実施した学校は教えてください。

#### (1) 何時間授業でしたか。

短縮時間割	4時間	4時間と5時間	5時間	各授業を5分間短縮
小学校	44%	6%	50%	0%
中学校	25%	13%	25%	37%
全体	42%	7%	47%	4%

- ・小学校は、4時間と5時間が半分ずつぐらい。「いきいき」への接続を意識した学校もあったようだ。(いきいきは14:30～)

- ・1週目4時間→2週目5時間と体ならしの意味も含めて、実施したと思われる学校もあった。

- ・中学校では、時数は変えずに45分授業という形も見られた。

#### (2) 短縮授業実施期間について

短縮期間	～8月末	～9月第1週	～9月第2週
小学校	85%	13%	2%
中学校	62%	38%	0%
全体	83%	16%	1%

- ・多くが8月末までの実施であった。

- ・2学期制の実施に伴い、午後に個人懇談会を入れている学校もあった。

### 5. 2学期開始時の児童・生徒の様子や健康面で気になることがあればお書きください。

- ・休み中に会えなかった友だちと久しぶりに会えてうれしそうな様子でしたが「休み疲れ」の感じもありました。
- ・始業式の日から4時間授業で子どもたちも疲れが出ている様子でした。給食がないのであれば、12時半下校は遅い気がしました。
- ・暑さでへばっている様子でした。登校する前の通学で汗だくになっていて、不快であることを訴える生徒が数多くいました。
- ・うだるような暑さが続く中、児童は4時間の授業でも疲れているようだった。
- ・暑いため外遊びができず、ストレスが溜まっている。
- ・1年生が発熱で学級休業になった。
- ・暑すぎて体育は危険でした。保健の授業をして、体育は9月下旬からやりました。
- ・長期休み明けで体を慣らすという意味では、午前中で児童は下校で来てよかった。
- ・暑すぎて何の活動をする時にも気を使う。
- ・残暑が厳しく、9月1日始業でも良かった。戻してほしい気持ちでいっぱいです。生徒もしんどそうでした。
- ・全国的に8月25日始まりではないので、気持ちの切り替わりができにくい。まだまだ暑く、登校や下校もしんどい。また教育活動が制限されて困る。
- ・一番暑い時間帯の下校が気になる。
- ・給食後下校だったので、学校慣らしができ、児童にとっては良かった。区の人権の研修や遠足の下見などが行えたので、指導者も時間に余裕を持って取り組めた。
- ・教室によってはエアコンの効きが悪い部屋があり、暑くて体調を崩す子がいた。
- ・寝不足気味、遅刻が多い、暑さに体が慣れていない。
- ・リズムを崩している児童への対応。遅刻、欠席があるが、保護者との連絡がうまくいかない。
- ・登校渋りのある児童は体調を崩しているのか、学校のリズムに体が慣れていない。暑さにも慣れていない。休みがちである。
- ・今年はいつまでも暑さが続いていたので、8月下旬の2学期開始は登下校時、健康面で心配である。

6. 2学期開始時の教育活動についてお困りのことがあれば、お書きください。

【中学校】

- 学級の教室は冷房がありますが、美術室、技術室などはないので、暑すぎる室内で授業を行わざるを得ないことです。
- 暑い中で体育や空調のない特別教室の先生方や、そこで授業を受ける生徒は大変だと思う。
- 暑すぎてエアコンが効かない部屋があり、空き教員が屋上の室外機に水をかける作業を毎日数回行った。
- 教育相談をしなければならぬが、短縮がないので時間を十分に確保できずに困った。また、文化発表会が9月末にあるので、その準備活動も相まってせわしない2学期の始まりだった。
- 特別教室にエアコンがなく、体調を崩す生徒も多い。
- チャレンジテスト。
- 猛暑下でのスタートだったこともあり、生徒たちが学習に気持ちが向いていないように感じた。
- クーラーが全然効いていない。また、教室以外にも理科室や印刷室などにクーラーがないので非常に困る。生命の危機を感じる。

【小学校】

- エアコンがあればまだいいが、体育が暑すぎて教師も児童もしんどい。また、午後に体育が入っている場合、暑さ指数の問題で中止になることが多かった。
- 8月25日始まりは児童も我々も大変です。
- 暑さ指数危険が出るため、運動場、講堂での活動が制限され、子どもたちの意欲が削がれる。また、体育の授業ができないことも、子どもたちの気持ちに大きく影響しているように感じる。
- 暑い中で体が慣れるまで5時間授業でなければ、提出物、作品などの整理が大変だと思う。少しゆとりを持つことができた。
- 2学期もプールを行うことにしたが、それも暑さ指数的にはギリギリ。体育が9月半ばまでこの気候だと厳しい。エアコンが故障すると地獄。給食時の移動も非常に暑く苦しい。
- 冷房のない部屋（理科室、家庭科室、体育館）はとても授業できる環境ではありません。8月下旬から2学期を開始するのであれば、早急に空調の整備をしていただきたい。
- 外が暑すぎて外遊びもできないので、教室に1日いるのはストレスだと感じました。
- 短縮授業の期間を設けたが、いきいきの受付時間が決まっているため、1時間程度の児童看護をする必要があり、担任が教室で対応した。
- 家事都合での欠席が多く、全員がそろわない。
- 1～2年生は5時間になってもいつも通りなので、負担も減らずしんどそうでした。

7. 2学期を開始するにあたり、現場で感じている課題や改善すべきこと、配慮すべき点やアイデアがあればお書きください。

【中学校】

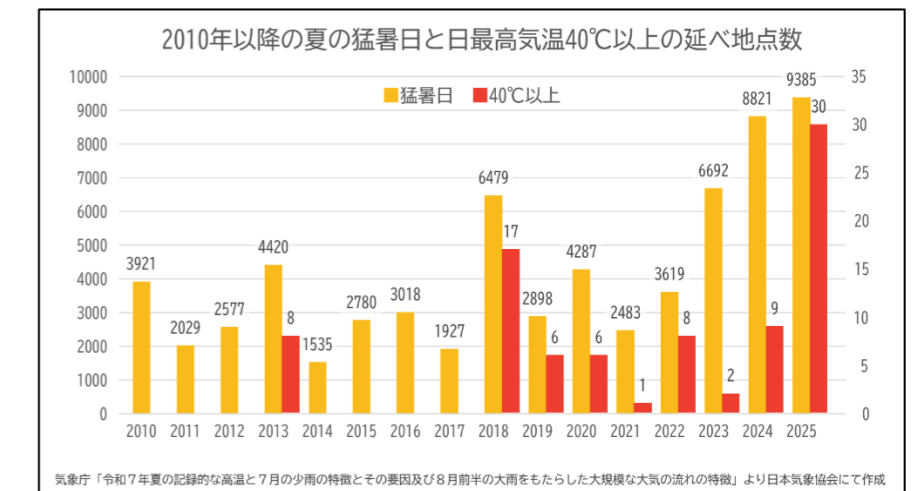
- 2学期には大きな学校行事が数多くあるため、教職員の勤務時間や負担感に極端な偏りが出ないように、分担を考えたり、声をかけたりしていく。
- 最初の1週間くらい、45分授業や4時間授業にして生徒の負担を減らすべき。
- エアコンがあるから大丈夫などと安易に考えるのではなく、慣らしながら環境に適應していくことも考えなければならない。
- 2学期初めのチャレンジテストの時期を変えた方がよい。2学期の開始が学校によってずれていることも少々混乱を招いている。市内で統一することを望む。
- 猛暑が長引く中での登下校や部活動など、外での活動の時間や服装、持ち物など配慮が必要。日傘、ネッククーラー、手持ち扇風機など。
- 授業時数の確保が難しい。チャレンジテストもある中、最低限のやるべきことしかやっていても、進度の調整をする余裕がない。チャレンジテストをなくすか、範囲設定をもう少しゆとりのあるものにするか、夏休みを短くするかのどちらかだと思います。

【小学校】

- 2学期の開始を9月1日以降にし、短縮授業も4時間にすれば良いと思う。授業時数のことを言う管理職がいるかもしれないが、府下では水曜4限の学校もある。教育活動全般を見直せば十分足りていると思う。子ども食堂を朝の学校に誘致してはどうか。
- 8月中の登校は暑すぎて大人も子どももつらいと感じます。また、9月に入ってもすごく暑かったので、しばらく短縮授業があると少しずつ2学期の生活にならすことができるのではと思いました。
- 体育のプールの時期は、2学期始まって9月末まで入れるようなカリキュラムの組み方。体育館にエアコンを早急に設置してほしい。
- 9月スタートでも良いように感じます。始業式の日から授業、給食スタートは問題ないと思います。
- 今年は特に暑かったこともあり、教室ではクーラーが設置されているが、登下校時の異常な暑さが心配であった。夏が暑くなるのなら、2学期開始を遅らせることも将来的には必要となるかもしれない。
- 酷暑が続くので、9月始まりでも良いのではとの声が多い。
- 短縮の話になるが、いきいきの預かりが14時半以降しか行えないということで、図書室や多目的室に集め、教員が監督をした。急な話ではなかったが、いきいきの指導員の勤務の問題と言われた。今後同じようになるのか、連携を取っていく必要がある。
- うちの職場は教職員のことをよく考えて、また子どもたちの心身の負担についても気を配り、対応をしてくれていて助かっている。

【今後の取り組み】

- 2025年夏の特徴として、春から夏にかけての季節の進みが早く、東北地方を除き5月に梅雨入り、6月に梅雨明けとなり、多くの地方で最も早い梅雨明けの記録となった。その影響もあり、北・東・西日本では6月と7月、および夏（6～8月）として歴代1位の高温となった。日本の平均気温は平年差+2.36℃、過去2年（2023年・2024年）の+1.76℃を上回り、3年連続で最も高い値を記録した。気象庁の統計開始以降、最も暑い夏となった。



- 年々暑さが厳しくなっているのは、数値上からも明らかで、今後、さらなる暑さ対策を検討していく必要がある。
- 8月の2学期開始の根拠となっているのは、「大阪市立学校管理規則」である。2016年10月の教育委員会議で小中学校の2学期の開始をそれまでの9月1日から8月25日と一部改正し、2017年度より小中学校とも現在の日程となった。
- 当時、夏季休業期間を7日間短縮した改正の理由は、
  - ①普通教室への空調機設置が完了し、学習に集中できる良好な環境を整備したこと。
  - ②カリキュラム改革による授業時間の確保を図るため。であった。
- しかし、その後の状況として、小学校の体育館や、小中の特別教室への空調機設置は計画通りに進まず、現在も完了していない。早急に体育館や特別教室に空調機設置が行われるよう要求を続けていく。
- 子どもたちや教職員が健康を保ち、適切な環境の下で安全・安心な学校生活を過ごせるように、短縮授業や学習活動の精選など各学校園が工夫を行っているが、大阪市全体として組織的に対応していくことも重要である。市教組は、今後もさまざまな立場からご意見をいただき、教育環境の改善を訴えていきます。